



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第110号

ピアソン便り

2023. 5.31

発行人：福井 洋之（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

NPO 法人ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

TEL.FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前 9:30 ~ 午後 4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

通算第25回（法人化第21回）

## NPO法人ピアソン会総会終了！

5月27日土曜日、ピアソン会活動開始後満25年を迎えた2023年度定期総会を、顧問のグラハム・ハード氏をニュージールランドからお迎えしての開催となりました。またこの総会では、新理事斎藤氏も信任され、画期的な若い理事の誕生、そしてコロナ禍を克服した、明るい総会となりました。

議長に小川運営会員が選出され審議が始まりました。第1号議案の2022年度活動報告・会計報告が事務局からあり、質疑を受けた後、森下真裕美監査委員の、監査報告がなされ、全員一致で活動報告及び会計報告が承認されました。

次に第2号議案、2023年度事業計画(案)・会計予算(案)の審議に移りました。記念館の管理業務経費は受託事業費で運営。ピアソン記念館自主事業費はピアソン会の独自予算で負担しています。

## 前年度の主な事業内容

2020年1月から始まったコロナ禍のまる3年間、各種事業など自粛状態が続いていましたが、昨年の秋には「ほっかいどう遺産WON」の助成金を得て、映画会「われ弱ければ、

## 《2022年度収入決算》

科 目	2022年度 当初予算額	2022年度 補正予算額	2022年度 決 算 額	予算増減
会費収入	280,000	0	262,000	△18,000
運営会員	90,000	0	85,000	△5,000
賛助会員	90,000	0	87,000	△3,000
フレンド会員	0	0	0	0
団体会員	100,000	0	90,000	△10,000
寄付金収入	280,000	0	716,751	436,751
個人寄付	50,000	0	450,151	400,151
団体寄付	20,000	0	12,000	△8,000
本の寄付	60,000	0	83,550	23,550
CDの寄付	0	0	4,000	4,000
絵葉書の寄付	150,000	0	167,050	17,050
その他	0	0	0	0
助成金収入	0	100,000	100,000	100,000
	0	100,000	100,000	100,000
委託料収入	5,018,200	△1,100	5,017,100	△1,100
国際交流委託料	0	0	0	0
指定管理委託料	5,018,200	△1,100	5,017,100	△1,100
前受金	0	0	0	0
雑収入	434	0	11	△423
今年度収入合計	5,578,634	98,900	6,095,862	418,328
前年度繰越金	581,366	0	581,366	0
今年度総収入合計	6,160,000	98,900	6,677,228	418,328

矢島榎子伝」の自主上映会を、北見芸術文化ホールで開催しました。矢島榎子婦人矯風会会頭が、1917（大正6）年9月に、野付牛町（現北見市）での遊郭設置反対運動支援のため訪問の、105年記念事業としての上映会でした。

その他の事業としては、「クリスマスリース講習会」、「唐笠何蝶記念室寄贈資料公開展」、「ハープ部会の「葉月展」。「モイストポップリ講習会」、「クリスマスツリー設置事業」など、平年に劣らない事業を実施しました。オリジナルエコバッグの製作も大変好評でした。

## 第25回グリーンコンサート開催案内

- ◎開催日時：2023年7月1日(土) 午後1時より午後3時まで（予定）
- ◎開催場所：ピアソン記念館前庭 北見市幸町7丁目4番28号（雨天の場合中止）
- ◎出演団体：北見市立中央小学校ブラスバンド部、市立北中学校吹奏楽部、北見吹奏楽団、アンサンブルAO
- ◎その他：無料／コロナ感染により4年ぶりの開催となります。



# 2023年度の会計予算

## 《収入の部》

科目	2022年度 予算額	2022年度 決算額	2023年度 予算額
<b>会費収入</b>	<b>280,000</b>	<b>262,000</b>	<b>280,000</b>
運営会員	90,000	85,000	90,000
賛助会員	90,000	87,000	90,000
フレンド会員	0	0	0
団体会員	100,000	90,000	100,000
<b>寄付金収入</b>	<b>280,000</b>	<b>716,751</b>	<b>290,000</b>
個人寄付	50,000	450,151	50,000
団体寄付	20,000	12,000	20,000
本の寄付	60,000	83,550	60,000
CDの寄付	0	4,000	10,000
絵葉書の寄付等	150,000	167,050	150,000
その他	0	0	0
<b>助成金収入</b>	<b>100,000</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>
助成金	100,000	100,000	0
<b>委託料収入</b>	<b>5,017,100</b>	<b>5,017,100</b>	<b>5,013,800</b>
国際交流委託料	0	0	0
指定管理委託料	5,017,100	5,017,100	5,013,800
前受金	0	0	0
雑収入	434	11	67
繰越金	581,366	581,366	767,133
<b>収入合計</b>	<b>6,258,900</b>	<b>6,677,228</b>	<b>6,351,000</b>

## 《支出の部》

科目	2022年度 予算額	2022年度 決算額	2023年度 予算額
<b>指定管理受託事業</b>	<b>5,017,100</b>	<b>4,643,121</b>	<b>5,013,800</b>
人件費	3,062,032	3,061,561	3,062,032
需要・役務・委託料	1,428,302	1,398,956	1,425,357
消耗品費	100,000	186,977	100,000
燃料費	191,100	214,897	191,100
印刷製本費	180,000	144,900	180,000
光熱水費	247,777	250,989	244,832
修繕料	50,000	21,828	50,000
通信運搬費	52,200	50,975	52,200
手数料	39,200	31,000	39,200
委託料	568,025	497,390	568,025
諸経費	70,666	48,540	70,611
消費税	456,100	134,064	455,800
<b>ピアソン会経費</b>	<b>1,241,800</b>	<b>1,266,974</b>	<b>1,271,800</b>
<b>自主事業費</b>	<b>1,020,000</b>	<b>1,151,381</b>	<b>1,050,000</b>
企画展事業	50,000	0	0
出版事業	150,000	149,851	50,000
ふれあい事業	400,000	352,325	400,000
コンサート事業	0	0	200,000
展示の充実事業	120,000	5,470	100,000
その他の事業	300,000	643,735	300,000
<b>ピアソン会事務費</b>	<b>221,800</b>	<b>115,593</b>	<b>221,800</b>
事務経費	50,000	0	50,000
通信費	100,000	87,282	100,000
会議費	50,000	28,311	50,000
旅費	0	0	0
雑費	21,800	0	21,800
予備費	8,100	0	65,400
<b>支出合計</b>	<b>6,267,000</b>	<b>5,910,095</b>	<b>6,351,000</b>

- ◎理事 齋藤尚樹（新任）、
- ◎理事 河田準子（再任）、
- ◎理事 神田綾子（再任）、
- ◎理事 森下一彦（再任）、
- ◎理事 玉置義弘（再任）、
- ◎副理事長 伊藤悟（新任）、
- ◎理事長 中山一夫（新任）、

任、活躍が期待されます。

副理事長 中山一夫（新任）氏が就任いたしました。また、副理事長の後任には、伊藤悟理事が就任し、新たに新理事として若手の齋藤尚樹氏が就任、活躍が期待されます。

## 新年度事業・予算について

新年度には、直営の工事で、玄関部分屋根の補修工事を実施します。また、建物の現況調査も実施いたします。

自主事業では、3年間実施できなかった大きな影響を残していると感じます。

「ヴォーリズ建築文化ネットワーク」関係では、6月10日・11日に発行で開催します。

「ヴォーリズ建築文化ネットワーク」関係では、6月10日・11日に発行で開催します。

「ヴォーリズ建築文化ネットワーク」関係では、6月10日・11日に発行で開催します。

室内コンサートも再開、7月22日土曜日フォークコンサート「ザ・グッピーズ」演奏会を会場整理券を予定。北海道遺産協議会の総会は、6月29日札幌にて開催予定。

グッズ関係では、今年度は英語表記のエコバッグを製作する予定です。

### 《2022年度支出決算》

科目	2021年度 決算額	2022年度 予算額	2022年度 決算額	増減
指定管理受託事業	4,632,877	5,017,100	4,643,121	373,979
人件費	3,061,668	3,062,032	3,061,561	471
需要・役務・委託料	1,358,331	1,428,302	1,398,956	29,346
消耗品費	192,712	100,000	186,977	▲86,977
燃料費	159,110	191,100	214,897	▲23,797
印刷製本費	180,100	180,000	144,900	35,100
光熱水費	215,730	247,777	250,989	▲3,212
修繕料	21,990	50,000	21,828	28,172
通信運搬費	52,101	52,200	50,975	1,225
手数料	37,388	39,200	31,000	8,200
委託料	499,200	568,025	497,390	70,635
諸経費	82,000	70,666	48,540	22,126
消費税	130,878	456,100	134,064	322,036
ピアソン会経費	1,146,958	1,241,800	1,266,974	▲25,174
<b>自主事業費</b>	<b>973,875</b>	<b>1,020,000</b>	<b>1,151,381</b>	<b>▲131,381</b>
企画展事業	0	50,000	0	0
出版事業	301,278	150,000	149,851	149
ふれあい事業	315,729	400,000	352,325	47,675
コンサート事業	0	0	0	0
展示の充実事業	280,820	120,000	5,470	114,530
その他の事業	76,048	300,000	643,735	▲343,735
<b>ピアソン会事務費</b>	<b>173,083</b>	<b>221,800</b>	<b>115,593</b>	<b>26,917</b>
事務経費	48,976	50,000	0	50,000
通信費	86,257	100,000	87,282	12,718
会議費	17,850	50,000	28,311	21,689
旅費	0	0	0	0
雑費	20,000	21,800	0	21,800
予備費	0	8,100	0	8,100
今年度支出合計	5,779,835	6,267,000	5,910,095	356,905

前年度繰越 581,366 円 + 今年度収入 6,095,862 円 - 今年度支出合計 5,910,095 円 = 次年度への繰越し 767,133 円

※ 2022年度の残高は、上記の通りとなり、2023年度の会計に引き継ぎされました。



写真上／総会開始冒頭、ハード顧問から4年ぶりの訪日が出た喜びの挨拶を受けたあと、予定された議案が審議され、すべて承認されました。

写真下／中山一夫新理事長の就任挨拶。その後ハード顧問を迎えての懇親会、楽しいひと時を過ごしました。



## 新役員決まる！

2021年度に、新理事長として福井洋之氏が就任しましたが、2年の任期を終え、今年度より顧問となりました。新理事長には前期副理事長であった中山一夫氏が就任いたしました。また、副理事長の後任には、伊藤悟理事が就任し、新たに新理事として若手の齋藤尚樹氏が就任、活躍が期待されます。



名寄本線（上り）の時刻表

野付牛	発	08:00	14:35
相ノ内	〃	08:16	14:51
上相ノ内	〃	08:26	15:05
留辺蘂	発	08:49	15:30
奔無加	〃	09:02	15:43
上生田原	〃	09:50	16:25
下生田原	〃	10:09	16:43
遠軽	〃	10:26	16:57
社名淵	〃	10:36	17:05
上湧別	〃	10:50	17:18
中湧別	着	10:59	17:25
	発	11:09	17:29
沼ノ上	〃	11:26	17:46
小向	〃	11:40	17:59
元紋別	〃	11:57	18:14
紋別	〃	12:12	18:26
渚滑	着	12:20	18:33
	発	12:35	18:40
沙留	〃	12:55	18:59
興部	〃	13:14	19:16
宇津	〃	13:31	19:32
中興部	〃	13:45	19:45
瀬戸牛	〃	14:00	19:59
上興部	〃	14:21	20:16
一ノ橋	〃	14:54	20:44
下川	〃	??:??	??:??
上名寄	〃	??:??	??:??
名寄	着	15:39	21:28

※ 1926年9月発行の時刻表から転載。1928年9月のダイヤ改正までは、この時刻で運行されていた。

北見・名寄間直通の列車  
札幌、函館までの接続が見込まれたメインルートは、午前、午後のこの二本のみでした。

名寄本線とは  
1916（大正5）年、名寄から網走までが結ばれ、名寄本線を經由すると、函館、札幌などから北見、網走へは、従来の池田經由の網走本線よりも距離が短くなり、石北本線開通「1932（昭和7）年」までは網走へのメインルートとなる。



昭和三年の名寄本線運行時間を記した時刻表を見つけました。  
当時は、名寄直通は午前と午後  
の二本だけでした（時刻表参照）。

野付牛停車場から  
列車は、朝八・〇〇発の  
名寄行列車（※名寄本線）

【写真】旅立った当時の駅舎のイメージ  
（当時の絵はがきA 年代不明）野付牛駅舎 代目（大正10年〜終戦前後）

投稿

ピアノン夫妻勇退帰国

五月十五日（火）、一九二八（昭和三）年、

ピアノン宣教師夫妻、野付牛を離れる

文責：北原俊之

野付牛を離れる日の様子  
が生き生きと描かれた証言など  
野付牛去りがたし。涙々。



『田舎伝道者』より

翌日ピアノン夫妻は北見の駅頭に多数の人びとから見送られて、十五年間住みなれ、伝道し、愛し、祈り、助け、励ました北見を後にして、遠軽に向われた。佐藤校長は途中まで同行したが、各駅毎ミセス・ピアノンが手をにぎって離さず、留辺蘂が遠軽までいったといわれる。汽車の中で泣き叫ぶミセスをどのように労わったらよいかわからず、佐藤校長の目頭もいつの間にか熱くなっていたという。

やがて汽車は遠軽についた。駅頭には遠軽教会員が多数押しかけて見送りにきていた。ここも北見の野付牛に劣らず、彼らが愛し、伝道し、働いた神の田畑である。いよいよ汽車が遠軽を離れる頃、教会員一同は大きな声で「また逢う日まで」の讃美歌を歌った。ミセスは泣き出した。ピアノンの眼にも光るものがみえた。しかし夫人は直ちに作詩して、車中より大声で「あゝ学田よ、あゝ学田よ」と歌いながら見えなくなったという。  
紋別、名寄を廻わり、旭川に立

ち寄り、教会員一同に別れを告げ、札幌に数日滞在し、小樽にも数日留まり、五月二十日、日曜日の夕礼拝に説教をして別れを告げた。小樽シオン教会七十五年史はこのときのことを次のように報告している。「一九二八年（昭和三）五月二〇日（日）夕拝にはジョージ・ピアノン博士帰米につき、ヨハネ福音書三章一―十五節による告別説教あり。出席者八六名。夕拝後ピアノン夫妻の送別会を開き別れを惜しんだ」。

やがて東京、横浜へと向い、愛して止まない日本を後にして、祖国米国に凱旋していった。  
『田舎伝道者 ピアソン宣教師夫妻』  
小池創造著（1967）

『ピアノン物語』より  
「忘れられぬ深い教訓」  
佐藤猪之助氏の話

ピアノン夫妻が野付牛を去る日、私は一同を代表して、途中の遠軽駅まで夫妻をお送りする為、汽車に同乗しました。

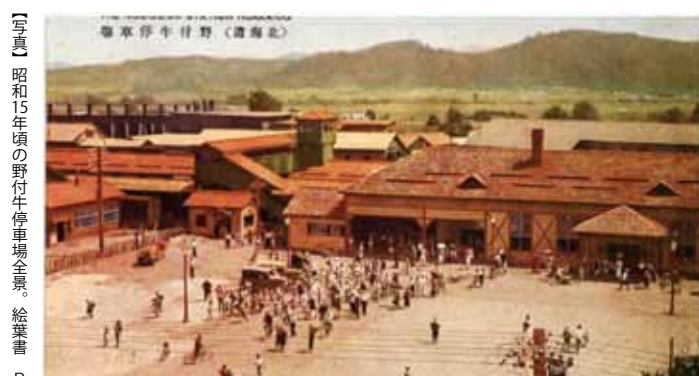
夫妻は車中で朝食の弁当を召し上がり、私にもパンとリンゴを分けて下さいました。食後、ピアノンさんは列車の窓を少し開け、弁当の包み紙を細かくちぎり、無言でゆつくり外に飛ばしました。ピアノンさんの胸中にあふれる別離の寂しさど日本人々々への感謝の気持ちを紙吹雪として表したのでしよう。

そして最後のお別れとなる遠軽

駅では待ちかまえていた一群の信者と、握手をかわし神の恵みを祈りつつ別れていかれました。  
『ピアノン物語』（ピアノン会編 1999）

ピアノン夫妻の年譜より

- 1928（昭和3）年
  - 4月11日（水） 第26回日本基督教会北海道中会（遠軽日本基督教会堂）ピアノン出席
  - 5月10日（木） ピアソン夫妻送別会
  - 5月15日（火） 野付牛（北見）を出発
  - 5月20日（日） 小樽シオン教会で告別説教・送別会（シオン教会史）
- ※横浜で客船に乗船し帰国  
エンプレス・オブ・エイジア号  
（5月26日（土）マニラ出港〜6月16日（土）バンクーバー着）



【写真】昭和15年頃の野付牛停車場全景。絵葉書 B

横浜で客船エンプレス・オブ・エイジア号に乗船し帰国

◆当該客船の乗客名簿・運航記録  
1928年5月26日マニラ発  
～6月16日バンクーバー着  
◆米国での住所  
エリザベス市ノースブロード9  
26のD・H・ピアソン  
—————  
◆帰国の際に乗船した客船  
RMS Empress of Asia  
「ホワイト・エンプレス」と讃え  
られる洗練された白い船体の客船



ピアソン夫妻が帰国した際の記録・乗客名簿が見つかりました。それによると、夫妻は、「エンプレス・オブ・エイジア号」という太

平洋航路の客船に横浜で乗船したことが記録されていました。正確な日時の記載はなし。ただし、この船は、フィリピンのマニラを5月26日に発航し、途中で横浜を経由し、6月16日にカナダのバンクーバーに到着したと記録されています。

ちなみに、米国での住まいは、身元保証人である兄のD・H・ピアソンの住所(エリザベス、ノースブロード926)になっています。1930年の国勢調査でも二人はこの住所に登録されている。



1922年のパスポートに貼付されていた写真

記事訂正をお願い!

前回会報109号1ページ中央写真下説明『弟所有のこの住宅……』の傍点部分を削除し、『この住宅……』と訂正してください。

思い出の講演

ピアソン夫妻と日本 (3)

師の残したもの

清水 昭典

ピアソン記念館『開館30年記念基調講演』2001年

ところでピアソン師に話を戻しますと師は、子供達を含めて多くの町民から親しまれると共に、一部の人達から迫害の難にあっております。一つは師夫妻の女性の救出や遊郭設置反対運動への嫌がらせ、特に地回りの人々の夫人に対する傷害事件がありました。もう一つは官憲が師夫妻をスパイではないかと嫌疑をかけていることであります。その背景には日米関係の悪化があると考えられます。わが国の明治維新以来の欧化主義思想が明治二〇年代に入ると、偏狭な国家主義思想へと転換したことに由来しますが、直接的には日米関係の悪化にあります。日米関係も日露戦争の頃までは友好的で、日露の講和条約の締結にアメリカのセオドア・ルーズベルト大統領が、日本に好意的な態度をとってくれたことは明らかであります。ところが一九〇五年(明治三八)日露戦争が終わり、日本の満州の鉄道経営など、いわゆる帝国主義的進出が行われると、アメリカは大陸における通商上の活動が日本に脅かされるとばかり急速に日米

関係が冷却していきます。ここに列強諸国の帝国主義的進出の市場争いが起こってきたのであります。政治的軍事的にはアメリカも米西戦争を起こし、その余波としてスペインの植民地であったフィリピンを占領、それから太平洋上のハワイ王朝の王権を取り上げ、侵略国家であるという性格を露骨に現すようになりました。さらに日米関係についてもアメリカは、一九二四(大正一三)年に至って、日本からの移民を一切認めない排日移民法を成立させるという拳に出ました。日本の移民が真面目に働かずして、黒人やプーアホワイトと言われる白人の職場を奪うこと、キリスト教徒のアメリカ人の日曜礼拝に加わらないことがカリフォルニア州民の日本人への反感を強めたことなどが排日法制定の理由といわれますが、それまでアメリカを正義と人道の国・国際協調の国と見ていた新渡戸稲造や渋沢栄一のようなおだやかな日本人をも、大いに憤激させました。

ましてその頃、明治以来の忠君愛国という国家主義の思想を鼓吹する人々が増え、それが国民的世論を形成しつつあった日本では、アメリカは日本人を迫害する傲慢で無礼ないがかりをする国、という見方が広がっていきました。また国粹主義者によるキリスト教に対する排撃論も横行するようになり、北海道でも著名な昆虫学者として知られた北大農学部教授の松村松年博士が、学生時代のキリスト教徒としての信仰を捨て、大正一一年に「科学と信仰」という一文を発表し、「現代に至って生物学や地質学の発達によって、聖書の不合理さが暴露されるに至った」とし、新しい知識「進化論」に反対する宗教的態度は恥ずべき無知であると決めつけました。そして松村教授が道徳や宗教に対する敬意を捨て、国家主義や帝国主義を肯定する主張は、小野村林蔵牧師を始め多くの信徒の反論を喚起したのです。このようなキリスト教排撃が横行する中でも北見で説教を続け、十字架の贖罪と神の愛を強調し、子供達にお話を聞かせ賛美歌を指導した師の地味で謙虚な生き方は、北見の人士に深い感銘を与えたが、師にとつては、心の痛む住み難い日々であったと察せられます。一九二八年(昭和三)師は六七歳で引退し野付牛を去ることになりましたが、当時の師夫妻にとつて日本の世相は決して望ましいも



のでなかったと思われ、北見の信徒が拠金して贈った紋付きの和服が、わずかに師夫妻の心を慰めたことと思われます。帰国した夫妻は、夫人の故郷イーストンに近いファイデルファイア市で著作活動に従い、数冊の信仰の冊子を出版したのです。

師が帰国してからの日米関係を含む国際政治は日に日に悪化しました。第一次世界大戦が終わったときに、戦争の惨禍を二度と繰り返さぬよう国際連盟の結成を提案したアメリカの大統領ウッドロウ・ウィルソンは、もはや国家だけの権力政治で平和を維持することが難しいと考えた人物ですが、この人もピアソン師と同じニューイングランドの地に生まれ、師と同じプリンストン大学を師より四年先輩として卒業したのですけれど、アメリカが連盟に加盟せず、英・仏・伊・日が理事国となりました。しかし、肝心の日本が一九三三年（昭和八）満州国の承認を得られなかったのを理由に連盟を脱退、昭和一年にはイタリーのムッソリーニ政権がエチオピアに進軍、連盟から侵略国の判定を受ける。さらに一九三七（昭和一二）年七月日中戦争が始まり、この年にはピアソン夫人が亡くなっています。その二年後、兼ねて糖尿病を患っていた師は余病を併発して七八歳で死去しました。一九三九年（昭和一四）七月三十一日でした。

師の人柄を、小池創造・吉田邦子訳の『アイダ・G・ピアソン著『月の北見路』の中の小池創造さんによる『ピアソン抄伝』から摘出させていたと、師が渡道してまもない明治時代、札幌の豊平河畔のサムライ部落と言われたスラム街のバラック小屋が前夜の台風で倒壊した中を背の高い異国人が泥だらけになつて、貧民と一緒に小屋の修理をしていたことが人々の噂となったが、その噂の主がピアソン宣教師であつたと言います。

また師は心血を注いで『略註旧新約全書』の編纂事業に携わり、日本人に聖書に親しんで貰いたいと尽力したが、この仕事が母校のプリンストン大学から高い評価を受け、神学博士の称号を受けたのでした。しかし師は「博士」と呼ばれることを好まず、教会の玄関で「こちらはピアソン博士です」と紹介されると、草履を揃えながら「私は草履はかせです」と日本語の洒落を言つて笑わせたそうです。

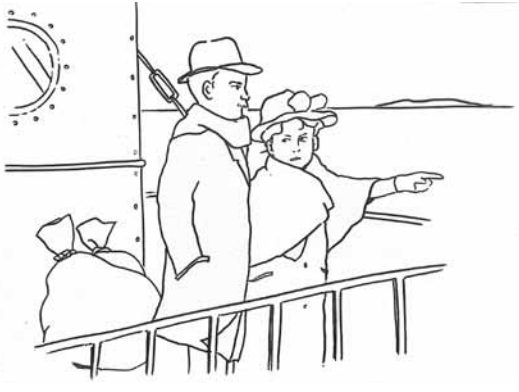
また師夫妻は、貧しい人、差別されている人、虐げられている人、すなわち弱者のために友人となり、とりわけ旭川の近文のアイヌ民族の集落では、アイヌの父といわれた有名な英国人伝道者ジョン・パチエラー宣教師と協力し、アイヌを援助しました。

師が野付牛原野に定住した時はすでに五三歳で、当時にあつては

老人であつた。伝道の拠点として、落ち着く住居を選定することにしたが、心の中ではクリスチャンの入地している遠軽の学田にしようかとも思つていました。しかしある初秋の夕暮れ、野付牛の高台に柏やエルムの巨樹が枝を広げ、キキョウ・カルカヤ・ハギが咲き乱れ、狐や兎が出没する小高い丘を散歩すると、遠く広がる屯田の開拓地の向こうに連なる山脈が美しい夕焼けに燃えている。こここそ自分たちの住むべき地、との靈感を受けたと言います。師はこの丘に山荘風の二階建て住宅を建てたのであつたが、当時の入植民は、師の住居を西洋風の御殿と呼んだそうです。そして開拓民はこの西洋館に招かれて、西欧の文物、生活様式をかいま見たのでした。師はこの地をこよなく愛し「スリー・オウクス」三本の柏のある森と呼んだのです。この西洋館はピアソン師が帰国したあと北見教会の信徒や宣教師も住みましたがその後、唐笠医師がこれを修理活用しました。一九五二年からは北見市の児童相談所となつたり、YMCA他が使用していました。その後は、一九五五年からは道の所有となり、一九六八年北見市に払い下げられました。当時の日本キリスト教会北見教会牧師だった小池創造さんが、ピアソン師の故郷エリザベツ市との姉妹都市関係提携を呼びかけ、エリザベツ市当局と交流した

り、ピアソン師の業績を世に紹介し、これに呼応し、ピアソン館の修復に積極的に予算措置をとり、その完成後、北見市の指定文化財とされたのが、当時の北見市長宇佐見福生さんであります。ピアソン館は単なる箱物ではない、ピアソン師が生きていれば、人権を奪われ貧困と病苦と戦火に苦しむ人々に対して愛と救済の実践を辛抱強く続けていたことでしょう。その意味でピアソン館は師の志を伝える重要な記念館なのであります。

一終一



第39回文化サロン de ピアソン

ザ・グッピーズ"サマーコンサート in ピアソン館"

- ◎ 開催日時 : 2023年7月22日(土)午後5時より午後6時まで(開場4時半)
- ◎ 開催場所 : ピアソン記念館1階 北見市幸町7丁目4番28号
- ◎ 出演 : ザ・グッピーズ(フォークグループ)
- ◎ 予約チケット : 鑑賞料は無料で。鑑賞整理券必要(7月2日より予約受付)。
- ◎ 問い合わせ : NPO法人ピアソン会(電話0157-31-1215)



# 「ニュージージーランドからの便り」第39回

ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏



2023.4.7 (金)

## ファンガヌイからの挨拶

◆北見では春の兆しを楽しんでいらつしやることでしょうか。ここまでは秋に入り、天候は安定しています。今日のグッド・フライデーからイースター・ホリデーが始まり、多くの人々が旅行に出かけます。

◆先日のメールに、信号待ちでトラクターを見たとなりましたが、それはステイヴのよりずっと大きなものです。ステイヴは、古くなくても彼の機械が気に入っています。

◆先週土曜日(4/1) ファンガヌイへ来て、明日(4/8) 戻ります。目的はリンゴの収穫でしたが、あまり良くなく、一番の出来は「ふじ」でした。友人たちへの贈り物には十分です。

◆先日、ステイヴとファンガヌイの北でパテアリヴァーにある口トランギダムを見に行きました。初めての場所で、辺鄙な地域でしたが、近辺には美しい風景が広がっていました。途中、アルトンとハーレイヴィルの酪農地帯を通りました。1907年と1893年創業

の事業は今も健在です。ファンガヌイからタラナキへ至るメインハイウエーのルート3から距離がありました。ここもまた私には新しい土地でした。私のコテジそばのパドックと羊たち添付します。北見の皆様どうぞ宜しく。

2023.4.13 (木)

◆教会でイースターを祝われたことでしょうか。ピアソンの総会とそれに続く集いへのお招きありがとうございます。参加できるような北見での日程を組みます。皆様にお会いできるのが楽しみです。「ピアソン便り」の縮刷版ありがとうございます。火曜日(4/11)に配達でした。このような形で記録がなされるのは素晴らしいことです。

◆北島中央部の山々を見ながら楽しいドライブでした。こちらは心地よい秋の日和です。北見の皆様宜しく。

2023.4.17 (月)

◆ピアソン会定期総会の詳しい日程をありがとうございます。再会が楽しみです。小坂さんの美しい書もありありがとうございます。ピアソン便りの記録DVDは土曜日(4/15) 無事に届きました。このことも感謝です。

◆今朝、地域の薬局で最終のコロ

ナワクチンとインフルエンザワクチンを接種しました。これで旅への備えが整いました。

2023.5.8 (月)

◆春の到来を告げる新聞記事がありがとうございます。こちらは曇天で雨もあつたりしてはいますが、季節はこういふものでしょう。ストープの準備も整いました。

◆土曜日午後の英国王の戴冠式をTVで見ました。天候は良くなかつたとはいえ、予定通り進み大成功でした。6世紀の彩色された聖オースティン聖書(注1)が運ばれ、チャールズ国王に献呈されるのを目の当たりにし、嬉しく思いました。ケンブリッジ大学コルプス・クリスティ・カレッジ(注2)のパーカー図書館所蔵で、値がつけられないほどの宝物なのです。

◆来週日本に向け出発するのを楽しみにしています。

2023.5.17 (水)

札幌へ無事到着

◆今日午後、無事に札幌へ着きました。ニュージージーランドからは長い旅でしたが、すべてが計画どおり順調でした。今日はずっと天候も良く、北海道へ戻ってこられて嬉しいですね。北見へのJRR予約ができましたらまた連絡いたします。北見で親しい方々にお会いできるのが楽しみです。

グラハム・ハード

(注1) 聖オースティン(アウグスチヌス)はカ

ンタベリーの初代司教(在任597-606)。イングランド教会が直面する諸問題に対応し、教皇と直結したイングランド教会の路線が敷かれた。《岩波キリスト教辞典》

(注2) コルプス・クリスティ・カレッジはハード氏の母校。

電子書籍版「ピアソン便り」  
(創刊号)第108号  
1998年10月〜2023年1月  
487ページ・カラー仕上げ  
予約販売 2500円

## 道新文化センター講座 「謎解き、ピアソン夫妻とノツケウシ」受講生募集!

今回で4回目となる「ピアソン学事始講座」が、6月19日月曜日にピアソン記念館で開催します。今回の講座で、道新文化センターが閉校することから「ピアソン学事始講座」最後の講座となるかもしれません。あるいは、皆様要望があれば、ピアソン記念館独自の講座としての継続を考えます。

「ピアソン学事始講座」の謎解き、ピアソン夫妻とノツケウシ  
6月19日(月) 13:00~15:00

瞳ふあっしょん・瞳けあ  
めがねのよっしー  
代表 岩井敏忠  
〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目  
携帯. 090-2693-1919 TEL. 0157-57-3664  
定休日/毎週木曜日・営業時間/10時~19時

### 編集後記

総会が終了いたしました。報告にありますように、顧問のハード氏をお迎えしての総会となりました。総会終了後には、丸4年間で中止いたしました総会終了後の懇親会をハード氏の歓迎会も兼ね、オホーツクビルで行いました。

グリーンコンサートを4年ぶりに開催するための準備をしています。4団体の参加での開催です。ぜひ聴きにきてください。また、会報の案内にありますように、7月22日には、フォークグループ「ザ・ゲッピーズ」による室内コンサートを開催いたします。入場整理券での開催となります。7月2日から当館にて配布、30名限定です。

コロナ禍によって、4年間いろいろと制限されていたことが、一挙に解除され、当会もこの間中止をしていた諸自主事業を再開しました。それらの準備を毎日追われていた状態です。感覚を取り戻すまでの位かかるのでしょうか。事務局に手伝いが欲しいです。

(理事兼事務局長 伊藤 悟)